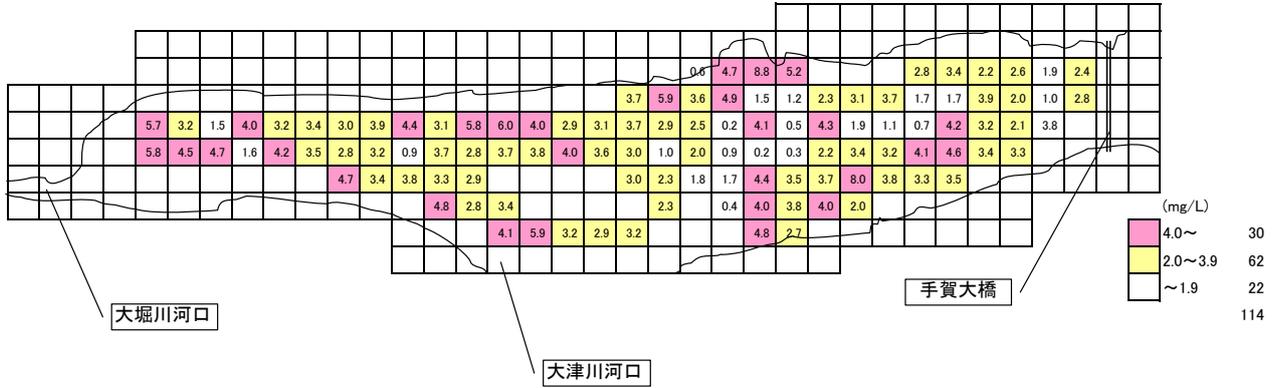


第 6 回手賀沼部会の意見要旨

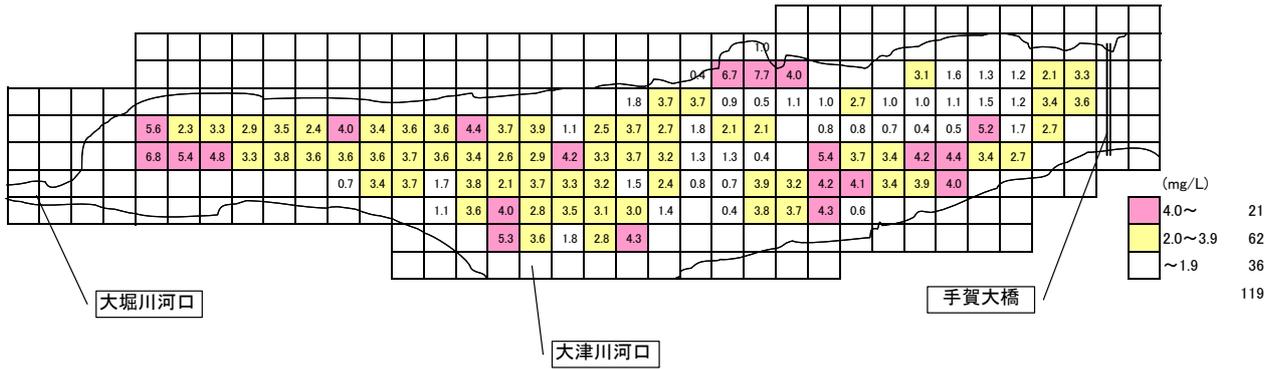
番号	意見の分類	意見要旨	事務局見解
No.1	環境／川づくり	水質悪化の原因と考えられるリンの除去について積極的に推進するべきではないか (田口委員、恵良委員)	<p>平成19年度にヘドロのリン濃度について調査した結果濃度の高い範囲が、減少していることを確認しています。</p> <p>今後とも、リン濃度とヘドロの堆積状態を監視しながら、リン濃度の高いヘドロの浚渫が必要であるとされた場合には、専門家、流域市の意見等を聞きながら、再開について検討してまいりたいと考えております。</p>
No.2	環境／川づくり	手賀沼における目標とする生物の設定についてどのように考えているのか (杉森委員、田口委員、恵良委員、岡田委員)	<p>湖岸の抽水植物群落は、手賀沼本来の典型的環境のひとつであり、沼の生態系の重要な基盤と考え、現段階においては、その保全と再生を目標としています。</p>
No.3	環境／川づくり	下手賀沼の水質汚濁や沈水船について (田口委員、阿曾委員、)	<p>下手賀沼への流入河川等の汚濁負荷量を減らす取組が本手賀沼と同様に必要であると考えております。</p> <p>県環境部門、地元市及び手賀沼水環境保全協議会、NPO等と連携を図りながら、浚渫、下水道の整備、合併処理浄化槽の整備などの流域対策の実施についてさらに推進してまいりたいと考えております。なお、沈水船につきましては、所有者不明かつ財産的価値の無いものについては平成20年度より「手賀沼水環境保全協議会」において撤去をすすめているところです。</p>

参考資料：本手賀沼上流部の底泥リン濃度の調査結果

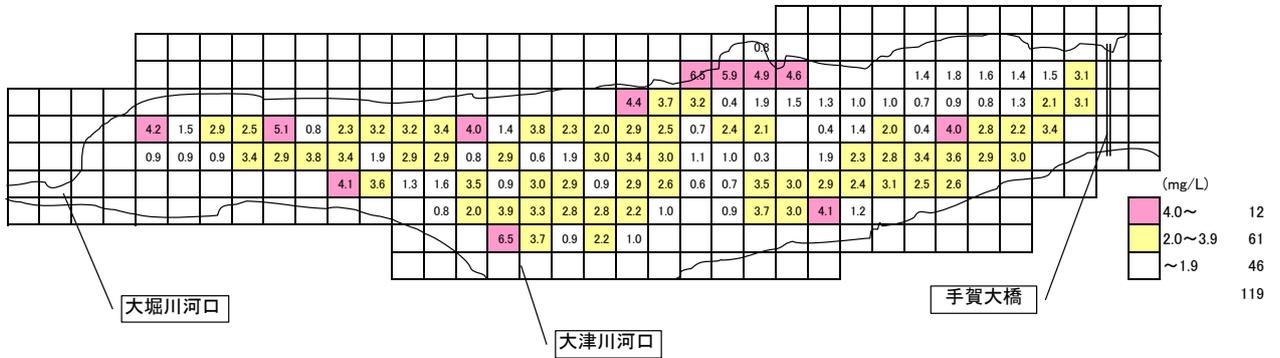
平成17年度



平成19年度

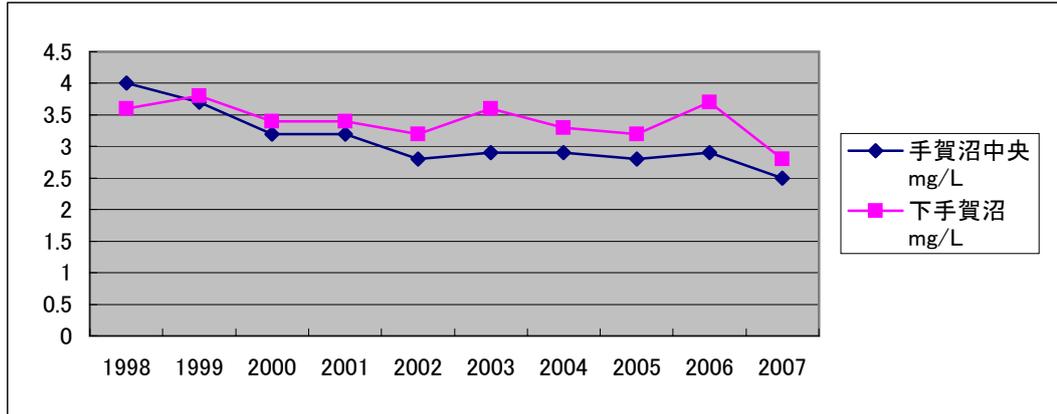


平成20年度

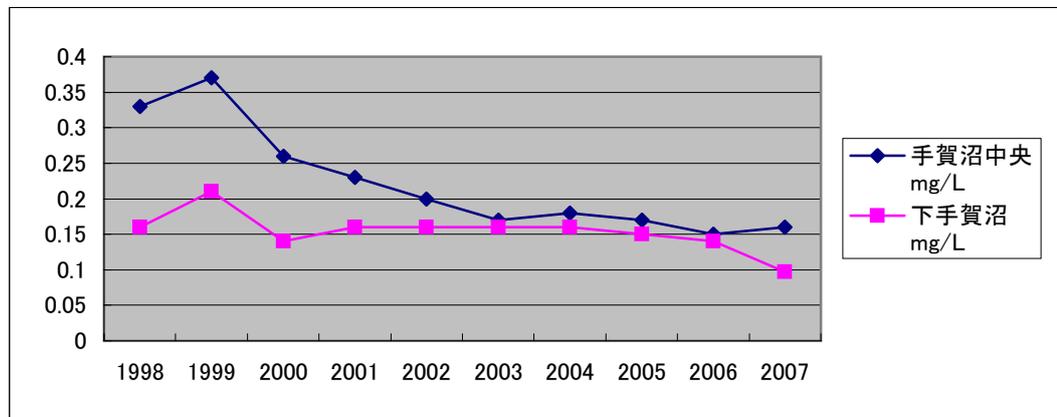


参考資料：本手賀沼と下手賀沼の水質の経年変化

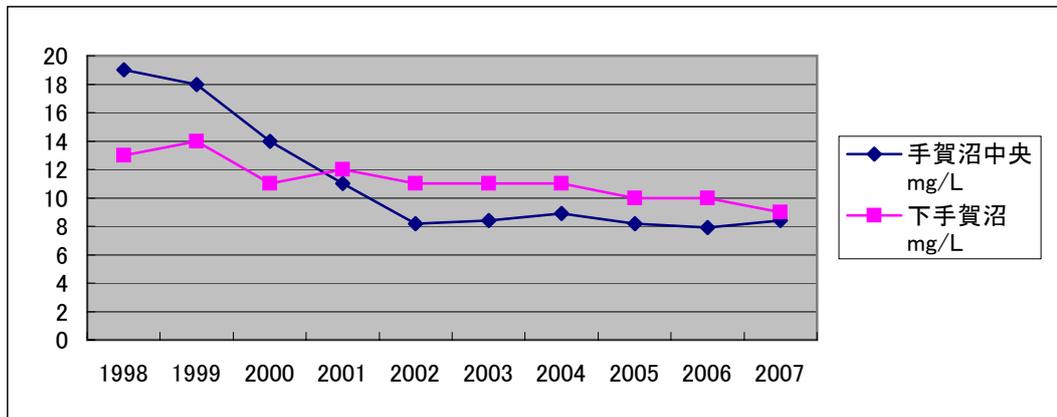
全窒素



全リン



COD



BOD

